

## 博士（経済学）ディプロマポリシー 経済学クラスター

経済学クラスターの学修目標は、独自に経済研究を行う専門知識と、政府または民間部門に対して政策提言やコンサルティングを提供する専門技能を合わせ持つ学生を養成することである。この目標を達成するために、経済理論、制度的枠組み、および分析手法に関する、理論的かつ実践的なカリキュラムを提供している。本クラスターは、絶え間なく変化する経済状況に直面している開発途上国や新興国の、政府省庁や主要研究機関で必要とされる専門的で高度な技能の向上を支援する。

国際大学学則で規定されている本学の目的と国際関係学研究科の教育研究上の目的を達成するために、経済学クラスターは博士（経済学）の学位を取得するために必要な修了要件と学修目標を次のとおり定める。

### <課程修了の要件>

#### 在学期間に関する要件

学生は、博士後期課程に3年(9学期間)以上在学しなければならない。

#### 授業科目の履修及び修了に必要な単位数に関する要件

学生は、経済学クラスターで指定された履修要件に従って科目を履修し、必要な単位数を取得しなければならない。学位取得に必要な単位数は、15単位とする。

#### 単位認定

コースシラバスに明記された評価項目について審査したうえで、最終評価スコアが100点満点中60点以上であった学生に単位を与える。

また、学生は1年次に履修した指定必修科目の内容を踏まえた博士候補認定試験を受験し、すべての試験に合格することで、博士候補として認定される。博士候補認定試験は筆記試験によって行われる。

#### 博士論文の提出に関する要件

学生は、博士論文指導委員会(1名の指導教員と2名の副指導教員からなる)の指導の下で、審査基準を満たす博士論文を完成させ、期限までに提出しなければならない。

博士学位論文は原則として3つの学術論文で構成され、そのうちの1つは事前に査読付き学術誌に受理されていなければならない。

#### 博士学位論文審査の要件

学生は、博士論文指導委員会と外部審査員からなる博士論文審査委員会による口頭試験に合格しなければならない。

### <学修目標>

博士（経済学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

#### 知識

- 現実の問題を分析するために必要な、最先端のミクロおよびマクロ経済学の最新の知識
- 実証分析のための、最先端の統計、計量およびその他のデータ分析能力を有し、それを経済問題の分析に応用する能力

- 十分な計量手法に関する知識を有し、それを現実の経済政策の分析評価に用いる能力
- 最新の分析手法を援用し、学術論文を仕上げる能力

#### スキル

- 経済学の理論的および実証的知識を援用し、重要な現実の経済問題を分析する能力
- 経済問題や経済政策を評価するための経済学の専門能力
- データに基づいた実証分析を行うための数学および統計学の高度な知識
- 経済学の専門的セミナーにおけるプレゼンテーション能力、および政府および民間部門に適切な助言を行う能力
- 重要な経済問題に関して、専門ジャーナルに論文を公表する能力

#### 学術的態度

- 経済および社会問題を独力で論理的かつ創造的に考察する姿勢
- 専門誌を常にフォローし、質の高い研究に関わる知識を習得する姿勢
- 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え
- 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度